

「報恩講」

第12組 極善寺 最上 仁道

「報恩講って何ですか？」と尋ねられると、一般的には親鸞聖人のご恩に報い、教えに出遇うお講で、ご命日を縁として真宗のお寺では一番大切な行事として勤められていると答えられています。

若い頃の私にとっての報恩講とは、恩に報いると言っても何をすれば報いることになるのか、曖昧なままその意味を考えることもなく、ただ決められた日時に決められた事を粛々と進めていく、そんな報恩講であったと思います。

しかし年を重ね、毎年同じ様に繰り返される報恩講の中で、見えていなかった大切な事が少しずつ見えてくるようになりました。

報恩講は厳修される当日だけのことではありません。何日も前から報恩講に向けて父もお斎のための大根を畑で丁寧に作り、石臼で餅をついてお華束などの準備をします。毎日掃除をし、ご門徒の方々と仏具を磨き荘厳を整えます。

当日は、近所の婦人会の方が腕を振るいお斎の用意をしてくれます。

お勤めの後、ご門徒と寺族と一緒に法話を聞き、お斎をいただきます。それが何百年も続き、子育てと喜んできました。

ご門徒、寺族とが一緒になって作り上げるお講。難しく考えることはなかったのです。

お講という環境で、親鸞聖人の教えを皆で確かめ次の世代へ繋げていく。寺族もご門徒も一緒になって報恩講にお参りをする。その姿勢が報恩の心に繋がっていくように思います。

どうぞ報恩講にお参りください。